

- 巻頭言 1
- フォーラム2012報告 2
- 初の犯罪被害者支援功労者表彰 2
- 平成24年度秋期全国研修会 6
- 用語解説 子どものトラウマ・フォーカスト認知行動療法 7
- 編集後記 8

巻頭言

全国犯罪被害者支援フォーラム2012 によせて

認定特定非営利活動法人
全国被害者支援ネットワーク 理事
熊谷 明彦

平成24年9月28日、「子どもの犯罪被害とその支援」をテーマに全国犯罪被害者支援フォーラム2012が開催されました。本年は、子供の犯罪被害について、とりわけ、親と子の立場の違いと、子供の性犯罪被害とその支援に焦点を当てたプログラムが組まれました。

また、本年度から新しく犯罪被害者支援表彰制度が創設されたことに伴い、犯罪被害者支援活動にご尽力してこられた支援活動員の方々及び団体の表彰、犯罪被害者支援活動にご支援・ご協力いただいているの方々及び団体に感謝状の贈呈が行われました。

表彰及び感謝状の贈呈を受けたの方々及び各団体に心より敬意を表するとともに、次年度以降も、多くの方々や団体が受賞されることを祈念致します。

さて、本年のフォーラムの内容は、各機関・団体を代表しての挨拶、表彰及び感謝状の贈呈、パネルディスカッションⅠ・Ⅱで構成され、各々その内容は意義深いものでした。

パネルディスカッションⅠ「私の犯罪被害～親と子の立場から～」では、子が犯罪被害に遭った方、親が犯罪被害に遭った方に、それぞれの立場から、辛い体験、二次被害の実情に加え、被害者支援との関わり等について、率直な思いを込めたお話しをしていただき、お話の終わりには、最大の被害者支援は加害者をつくらないことであるとの発言もありました。この発言は、犯罪被害の甚大さ、犯罪被害者支援の重要性について身をもって体験した方々からのメッセージとして深い感銘を受けました。

また、パネルディスカッションⅡ「子どもの性犯罪被害とその支援」では、各地で子どもの性犯罪被害の支援活動に携わっている犯罪被害相談員、臨床心理士（警察職員、大学教授等）の方々、子どもの性被害の実情、実際にあった事例に基づいた支援方法について詳細な報告を行い、その報告に基づいて、留意点や現状の問題点を分析し、さらには、今後の課題についても活発な意見交換がなされました。

性犯罪被害を受けた子どもに対する支援には、子ども年齢、家族や学校との関わり方、犯罪被害相談員と臨床心理士等の専門家や警察をはじめとした公的機関との連携の仕方など、配慮すべき点、改善すべき点が多数指摘されましたが、それらの指摘は、犯罪被害者支援に取り組む私達に今後の指針を示すものとして大変意義深いものでした。

残念ながら、今も、交通犯罪、児童虐待などによって、全く落ち度のない子ども達が被害を受ける事件は少なくありません。また、犯罪被害の相談件数は増加傾向にあります。性犯罪被害者の約半数は少年、すなわち子ども達です。

全国犯罪被害者支援フォーラム2012のプログラムは、私達に、この厳然とした事実を再認識させ、「子どもの犯罪被害とその支援」について考察を深め、課題に取り組み続けるために有益な示唆を与えてくれました。

これを機会に、皆様とともに、さらなる努力を重ねていきたいと思っております。